

Let's have a dialogue!

ワークシートで学ぶ 施設実習

和田上貴昭 那須信樹 原孝成 編著

『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2』対応



はじめに

保育士養成校で学ぶ学生の多くは、保育士資格取得後、保育所や認定こども園などの保育施設に就職します。保育施設の数が多いこと、身近なことがその理由でしょう。一方で、数は少ないものの、保育所以外の児童福祉施設や障害者施設に就職していく学生もいます。きっかけが施設実習で、利用児／者と関わった体験や職員との出会いにより関心を持ったという学生もいることでしょう。施設実習の対象となる施設保育士の仕事は、保育施設の保育士とは異なる魅力があります。施設実習でその魅力を感じてもらえたらと思います。

本書は、現在の保育士に求められる専門知識や技術、倫理について、実習の段階ごとに学びます。「Homework Sheet」等への書き込みは、自らの学びの軌跡を振り返りながら、視覚的にその積み重ねを実感するのに有効です。内容については保育実習指導において各養成校が共通して教えるべき内容を記した「保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2」（全国保育士養成協議会）を参考に作成されています。ぜひ本書を活用して保育士としての専門性を身につけるための取り組みをしてください。

なお、本書と併せて保育所版も同時期に発刊されています。両書を用いることで、施設実習と保育所実習の連続性を感じ、段階的に学んでいくことが可能になると思います。

最後になりましたが、貴重な写真を提供してくださった施設の方に感謝申し上げます。安全管理上の観点から、施設を特定しない形での掲載といたしました。ご了承ください。また、本書の発刊にあたっては保育者養成等に関わる多くの施設現場の方、養成校の先生方にご協力を賜りました。施設現場の方からは、読者となる学生たちに対して臨場感あふれる温かいメッセージをお送りいただきました。執筆いただいた養成校の先生方からは日頃の実習指導の様子がうかがえる興味深い原稿をいただきました。心から感謝申し上げます。

2020年1月

編著者を代表して

和田上 貴昭

Contents

目次

まえがき iv

Part 1 主体的・対話的で深い学びを得られる施設実習にしていくために 1

Lesson 1 施設実習を目指すあなたと先生へ 2

1. このテキストの特徴と活用法 2
 2. 「ワークシート」で語り合う・学び合う 3
 3. 「ラベル」で語り合う・学び合う 4
 4. 「Homework Sheet」で語り合う・学び合う 5
 5. 用語の説明 5
- サンプルシート I 7
- サンプルシート II 8

Part 2 〈事前準備編〉施設実習の概要について学ぶ 9

Lesson 2 実習の意義・目的・内容について理解する 10

1. 施設実習の概要
2. 保育士の定義について
3. 施設実習の目的と内容

Lesson 3 実習施設について理解する 14

1. 社会福祉施設の社会的役割
2. 社会的養護の現在
3. 障害児 / 者施設の現在

Lesson 4 関連法規 16

1. 施設実習と法規
2. 施設実習関連法規
3. 主要基本法の概要
4. 法規を学ぶことの強み

Lesson 5 実習の段階と方法について理解する 18

1. 実習の段階
2. 実習の内容

Lesson 6 実習生としての心構えについて理解する 20

1. 実習前
2. 実習中
3. 実習後

Lesson 7 実習記録（日誌）の意義と方法について理解する	24
1. 実習記録の意義	
2. 保育士養成カリキュラムにおける実習記録とは	
3. 実習記録（日誌）と関連した語句の整理	
4. 日々の実習記録（実習日誌）作成に関する留意事項	
Lesson 8 支援計画について理解する	28
1. 個別支援計画書とその考え方	
2. 個別支援計画の策定の流れ	
Lesson 9 自己課題と実習課題を明確にする	34
1. 実習課題を明確にすることの必要性	
2. 実習課題設定の視点	
Lesson 10 実習に必要な事務手続きについて理解する	38
1. 施設実習の一連の流れについて	
2. 各段階での手続き内容	
Lesson 11 実習施設でのオリエンテーションについて	42
1. 実習施設でのオリエンテーションの意義と目的	
2. オリエンテーションの一般的な流れと内容	
Special Lesson 1 「実りある施設実習にむけた準備と心構え」	44
Check! 1	47
Part 3 Section 1 保育実習 I（施設）に取り組む	49
Lesson 12 実習施設の概要について学ぶ	50
1. 利用児／者と施設の理解	
2. 生活の場であることを理解する	
3. 入所理由／障害特性を理解する	
4. 退所後を見越した支援を理解する	
Lesson 13 乳児院について学ぶ	52
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 14 児童養護施設について学ぶ	54
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 15 児童自立支援施設について学ぶ	56
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	

3. 実習の特徴	
Lesson 16 児童心理治療施設について学ぶ	58
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 17 児童相談所一時保護所について学ぶ	60
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 18 母子生活支援施設について学ぶ	62
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 19 福祉型障害児入所施設について学ぶ	64
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 20 医療型障害児入所施設について学ぶ	66
1. 入所理由と家庭背景	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 21 障害者の入所施設について学ぶ	68
1. 利用目的と家庭の状況	
2. 生活と支援	
3. 実習の特徴	
Lesson 22 児童発達支援センターについて学ぶ	70
1. 利用目的と家庭の状況	
2. 支援内容	
3. 実習の特徴	
Lesson 23 障害者の通所施設について学ぶ	72
1. 利用目的と家庭の状況	
2. 支援内容	
3. 実習の特徴	
Lesson 24 児童館について学ぶ	76
1. 施設の役割	
2. 支援内容	
3. 実習の特徴	

Lesson 25 保育の専門性としての養護技術を学ぶ～指導実習を通して～ 78

1. 養護技術とは
2. 部分実習における学び
3. 職員によるスーパービジョン

Lesson 26 社会福祉施設と権利擁護 80

1. 児童の権利に関する条約における「子どもの最善の利益」とは
2. 障害者の権利に関する条約における「合理的配慮」とは
3. 第三者評価事業および被措置児童等虐待防止等の取り組み

Lesson 27 組織的に行われる福祉実践について学ぶ 84

1. チームによる支援体制
2. 他職種の専門性を理解する
3. カンファレンスと記録の活用

Special Lesson 2 「実りある実習体験にするために」 87

Part 3 Section 2 保育実習Ⅰ（施設）を振り返る 91

Lesson 28 保育実習Ⅰ（施設）の内容について振り返る 92

1. 気持ちの振り返り
2. 事実の振り返り
3. 振り返りのワーク

Lesson 29 保育実習Ⅰ（施設）の評価結果について知る 94

1. 評価の客観性
2. 評価の項目
3. 評価の読み取り方
4. 自己評価との比較

Lesson 30 保育実習ⅡまたはⅢに向けた実習課題を明確にする 96

1. 保育実習Ⅰ（施設）からの実習課題
2. 保育実習ⅡまたはⅢに向けた実習課題
3. 保育実習ⅡまたはⅢに向けた実習課題の設定

Special Lesson 3 「子どもたちに未来を見る」 100

Part 3 Section 3 保育実習Ⅲに向けて 101

Lesson 31 家庭（保護者）の状況と支援方法について学ぶ 102

1. 保育士と保護者との関係性を理解する
2. 保護者支援の基本
3. 実習の際に気をつけること

Lesson 32 他専門機関・施設との連携の実際について学ぶ 104

1. 関係する専門機関・施設との連携

2. 利用児／者と家族の福祉ニーズを理解する
3. 統合的にニーズを捉える視点
4. 連携を図るための個人情報の取り扱い

Lesson 33 保育士の倫理観について学ぶ 108

1. 「保育士の倫理観」の学び
2. 保育専門職と職業倫理
3. 倫理綱領等の活用

Special Lesson 4 「施設で暮らす子どもたちの家族について考えてみよう」 111

Check! 2 115

Part 4 保育実習Ⅲを振り返る 117

Lesson 34 保育実習Ⅲの内容について振り返る 118

Lesson 35 保育実習Ⅲの評価結果について知る 120

1. 評価の項目
2. 評価の読み取り方
3. 自己評価との比較

Lesson 36 保育実習Ⅰ（施設）、Ⅲを総括する 122

1. 「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅲ」の評価
2. 今後の自己課題の明確化
3. 施設実習の総括

Lesson 37 実習後の新たな学習課題を設定する 124

1. 振り返りを生かす
2. 新たな学習課題を設定する

Special Lesson 5 「保育実習Ⅲを効果的に振り返る」 126

Part 5 実習を支える取り組み 129

Lesson 38 評価票のこと 130

1. 評価票の意義
2. 現場と養成校と学生をつなぐ評価票
3. 評価様式の実際

Lesson 39 訪問指導のこと 132

1. 訪問指導の意義
2. 訪問指導の内容
3. 訪問指導時に使用する資料

Lesson 40 「もしも…」のときに備える 134

1. もしも、通勤途中で事故にあったら…
2. もしも、施設内でけがをしたら…

3. もしも、施設の備品を壊したら…
4. もしも、利用児／者にけがをさせてしまったら…
5. もしも、具合が悪くなったら…
6. もしも、利用児／者から「職員には秘密」と言われたら…
7. もしも、住所を聞かれたら…

Lesson 41 使い方に気をつけたい表現 138

1. 文書作成上の基本的な注意点・間違いやすい表現
2. 使い方に気をつけたい表現

Special Lesson 6 「多様化する保育ニーズに応えられる人材へ期待」 140

巻末資料 143

- ◆巻末資料 1 ミニマムスタンダード実習指導計画 144
- ◆巻末資料 2 保育実習実施基準等 145
- ◆巻末資料 3 児童福祉法（施設根拠法） 147
- ◆巻末資料 4 障害者総合支援法 148
- ◆巻末資料 5 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 149
- ◆巻末資料 6 全国保育士会倫理綱領 150
- ◆巻末資料 7 全国児童養護施設協議会倫理綱領 150
- ◆巻末資料 8 乳児院倫理綱領 151
- ◆巻末資料 9 全国母子生活支援施設協議会倫理綱領 151
- ◆巻末資料 10 児童の権利に関する条約 152
- ◆巻末資料 11 障害者の権利に関する条約 154

ワークシート例 157

- Homework Sheet Lesson 3 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 7 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 10 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 11 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 18 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 23 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 24 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 28 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 29 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 30 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 33 (Sample)
- Homework Sheet Lesson 41 (Sample)
- サンプルシートⅠ（フォーマット）
- サンプルシートⅡ（フォーマット）

Part 1

主体的・対話的で深い学びを得られる 施設実習にしていくために

Lesson 1	施設実習を目指すあなたと先生へ	2
	1. このテキストの特徴と活用法	2
	2. 「ワークシート」で語り合う・学び合う	3
	3. 「ラベル」で語り合う・学び合う	4
	4. 「Homework Sheet」で語り合う・学び合う	5
	5. 用語の説明	5
	サンプルシートⅠ	7
	サンプルシートⅡ	8



児童養護施設 園庭

2人から可能となる学習スタイルですが、5~6名を単位とする小グループ形式での学習のほうがより効果的です。

以下、Homework Sheet 活用のポイントを紹介します。

1) 準備 (☞ 巻末の「ワークシート例」参照)

巻末に「Homework Sheet」のサンプル様式を添付していますので、授業担当の先生の指示に従い必要に応じてコピーを準備してください。もちろん、Homework Sheet の様式は基本的に自由です。授業担当の先生と相談しながら、あなたの養成校だけのオリジナル様式を作成するのも良いでしょう。

2) 記入はすべてペン書きで

「Homework Sheet」への記入もペン書きが前提となります。ワークシートへの記入と同様に、あらかじめペン書きに慣れておく意味でも、すべてペン書きでチャレンジしてみてください。

3) 各項目記入上のポイント (8頁の「サンプルシートⅡ」をもとに)

① Homework Sheet のナンバー：授業担当の先生の指示により記入してください。

② 学籍番号・氏名：

自分の学籍（学生）番号と氏名を記入します。氏名の右端には、実習指導案などと同様に、提出者の印鑑を捺印したうえで提出します。

③ チェック担当者サイン：

先に述べたとおり、グループ内で相互に Homework Sheet を交換し、赤ペンなどで誤字脱字のチェックをしたり、当該課題への予習成果に対するコメントを記入したりする場合、該当者のサインを記入します。

④ 提出締切日と提出先：日誌や指導案同様に、提出締切日と提出先を確認します。

⑤ 課題内容：

授業終了時に、授業担当の先生から指示される課題内容を記入します。ある養成校の例では、「児童憲章」などに謳われている内容をそのまま転記するという課題もあるようです。機械的に転記するのではなく、考えながら転記することで、その内容や位置づけ、意義について再確認したり、各 Lesson に設けられた「ワーク」の内容に沿った形での事前学習内容が設定されたりするなど、内容は実にさまざまです。

5. 用語の説明

本書において用いられる用語についての説明は、基本的に「ミニマムスタンダード」(2005・2018) に準拠する形で行います。詳細については、巻末の資料にて確認してください。

サンプルシート I

- ① 授業が実施された日付や曜日、天候や授業回数を記入します。
- ② 自分の学籍(学生)番号と氏名を記入します。
- ③ 自分のクラス、あるいは受講者メンバーの人数を出席と欠席の別に記入します。
- ④ 授業に参加(参観)してくださったゲストの名前を記入します。
- * 該当する Lesson No. を記入します。

施設実習指導ワークシート

授業実施日	10月 29日 月 曜日 天候 晴 第 3 回目	出席者	51 名
学籍番号	07C333	氏名	中村 裕美
		欠席者	3 名
		ゲスト	伊藤香織(保育士(03C))

※下の欄は、担当の先生の指示に従って記入してください。

主な授業内容 と 授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ① 前回授業の振り返り(課題相互チェック)を通して、グループ内で各自の実習施設のプロフィールを紹介し合いながら施設ごとに異なる施設保育士の役割を理解する。 ② 施設実習事前指導の内容確認 ③ 実習施設について理解する ④ 実習生としての心構えについて 	Lesson No. Lesson 1~3
-----------------------	--	-----------------------------

◆授業のポイント!

〇〇園(児童養護施設) 戸村

小舎制52人定員
本園5ホーム(1ホーム8人/職員3名)
グループホーム2(1ホーム6人/職員3名)
(施設の理念)
・子ども中心に考える
(行事)
・実習期間中にバザーがある。

〇〇学園(児童養護施設) 中原

中舎制42人定員
本園3ホーム(1ホーム14人/職員6名)
1ホームは幼児と10歳未満の子どもたち、
2ホームはそれぞれ10歳以上の男子/女子ホーム
(施設の理念)
・キリスト教の精神による養育を行う
(その他)
・児童家庭支援センターが併設されている

〇〇園(乳児院) 長里

30人定員4グループ
0歳児グループ2、1歳児グループ2
(施設の考え方)
・家庭支援を重視し、できる限り
家庭に子どもを帰していく。

〇〇ホーム(母子生活支援施設) 中島

20世帯 + 緊急一時保護2室
(目指す支援)
・母子の権利擁護
・子どもの健全育成
(特徴)
・退所した後の母子の支援を継続的に行っている

☆先生からの一言

「新しい社会的養育のビジョン」により、
里親重視、家庭再統合重視の考え方が記され、
施設の役割は単に子どもを育てるだけでなく、里親支援や家庭支援、
一時保護機能、治療的機能を重視する方向に向かっている。

ラベルA(白色)

ラベルB(桃色)

◆Reflection!

次回までの課題(Homework)・その他(予定、特記事項)

HW(No.)

その他

A.N.H 2020<Ver.1.1>

⑤ 授業担当の先生の指示に従って、その当日に学ぶ授業内容と授業のねらいを記入します。

⑥ 授業担当の先生のレクチャー内容や板書された内容を記入していくスペースです。

⑦ 毎回の授業終了時に記入する感想ラベルです。毎回の授業で感じたり、考えたりした内容を記入し、メンバーと交換、学びを共有します。

⑧ 毎回の授業で自分にとって何が最も重要な学びであったのか⑥と⑦に記載した内容をふりかえりながら記入します。

⑨ 「Homework」については、授業担当の先生より必要に応じて提示される「宿題」です。予習や復習的要素が含まれています。「その他」については、次回授業内容に関する予告や学生同士による連絡や報告を記入します。

1. 個別支援計画書とその考え方

福祉施設において、利用児／者と日々関わる意味は、その利用児／者が自らの生活の営みに関心を寄せ、現状の生活をどのように捉えているのか、そして将来どのような暮らしをしたいのかをともに考えていくことにあります。その営みは福祉施設のみで完結することは少なく、他機関やさまざまな専門職と関わる必要が生じます。そして利用児／者それぞれの生活様式や有する課題には個別性があるため、支援に関わる全ての者が共通認識をもって携わることが重要になるのです。

その際、利用児／者の状況を理解し、支援の展開を図れるようにするのが個別支援計画書です。保育士が携わる可能性のある支援に関する計画書には、年齢や個人の特性、障害の有無などさまざまな種類や取り組み方が求められます（図 8-1）。特に施設実習は、乳児院等の未満児から障害のある成人を支援する障害者支援施設等まで幅広く、対象により支援計画の内容も異なる部分があります。

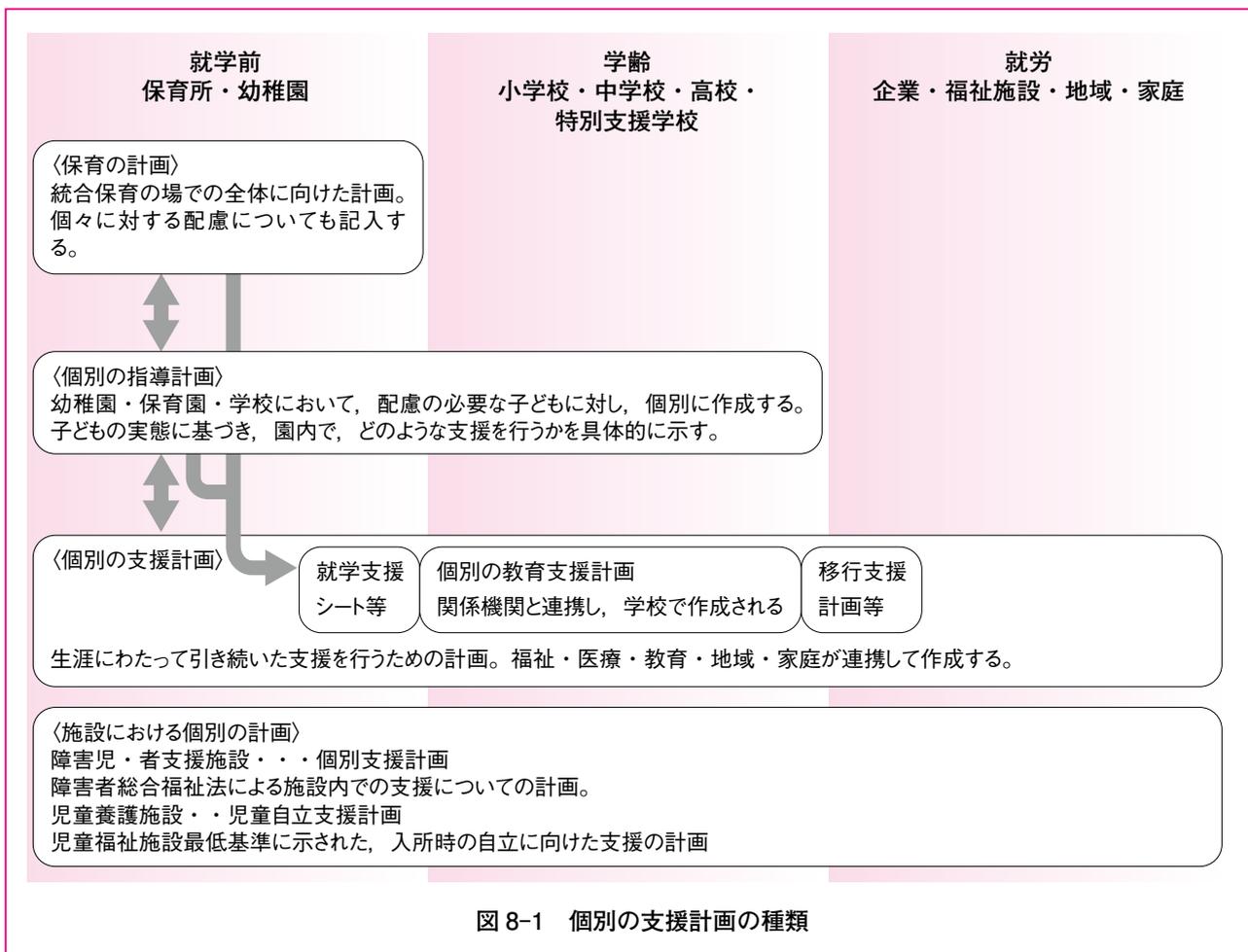


図 8-1 個別の支援計画の種類

野田敦史，林恵編『演習・保育と障害のある子ども』みらい，2017 より

個別支援計画書の果たす機能には、施設現場のみならず、家庭、他の福祉機関、医療、教育、地域住民等のさまざまな側面からの取り組みを包括し、利用児／者一人ひとりの多様なニーズに応じて、支援に携わる機関、関係者がトータルな支援を展開できるようにすることがあげられます。

さらに、個別支援計画書の取り組みを通じて、利用児／者と支援者が対等な関係を築くことができ

るという効果があります。利用児／者は「支援を受ける」対象ではなく、「支援を利用する」主体であることを、常に確認できるようになるのです。福祉施設で長期間生活をする利用児／者に対して、支援者が一方的に関わり続けると、日々生活する意欲や将来の生活への希望を考える機会を奪ってしまうという望ましくない状況を生じかねません。これは、利用児／者からみても、自らの選択や希望、生活を営んでいく力が育まれないことになり、負の連鎖が生じます。このような環境を生じないためにも、支援者は利用児／者と対等な関係を築くことが必要で、この個別支援計画書のプロセスを適切に理解し、取り組むことで、支援者としての正しい姿勢を育むことにつながっていくのです。

個別支援計画の考え方が定着する以前は、支援者の経験則に基づいた関わりが多く、また、施設内で完結する視点が強かったため、利用児／者の生活への移行・定着に関して、本人の意向や希望が十分に汲み取られない側面がありました。さらに、支援の具体的な目標や関わりの効果、課題の整理について、支援に携わった特定の者しか説明できない部分がありました。このような状況では、客観的な視点に基づいた支援の展開は難しく、結果的に、利用児／者が望む生活の実現に必ずしも応えることができていなかったと言えます。しかし専門職が行う実践は、行き当たりばったりの対応ではなく、専門性に基づいた支援の提供が必須であり、そのために個別支援計画の策定と、一定の展開プロセスを理解することが必要となります。

上記を踏まえ、個別支援計画の策定に関する流れについてみていきます。具体的な取り組みとしては、一般的に①ケースの発見 ②インテーク（受理面接）③アセスメント（事前評価）④プランニング（支援計画の策定）⑤インターベーション（支援の実施）⑥モニタリング（中間評価）⑦エバリュエーション（事後評価）⑧終結のプロセス、から展開されます（図 8-2）。

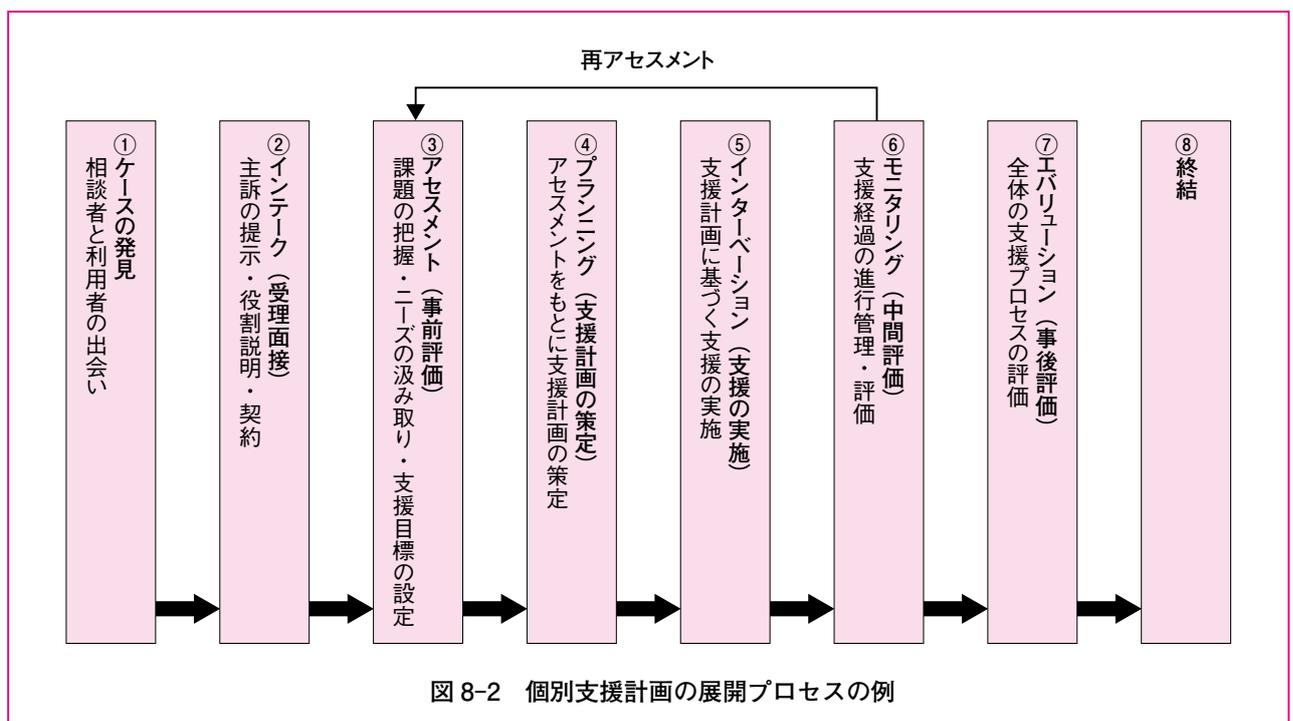


図 8-2 個別支援計画の展開プロセスの例

さて「保育実習Ⅲ」が終わりました。「保育実習Ⅰ（施設）」とは異なる施設種での実習となった人も多いと思います。保育所での実習も合わせて複数の施設種での実習を経験することにより、子どもや利用者の方のことをさまざまな視点から見て、広く深く理解できるようになったことと思います。それとともに、家庭や地域にも視野が広がり、保育士という仕事の難しさと意義もより理解できたのではないかと思います。

ではチェックリストを用いて、最後の実習を振り返ってみましょう。ここでも今までの実習と同様に、あまり深く考えずに、直感的に、ねらい、内容、態度、それぞれの項目について今回の実習のことを振り返りながらチェックをしていってください。チェックリストの具体的な内容は、表 34-1 のようになります。このチェックリストは、厚生労働省子ども家庭局長通知の「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」に示されている「教科目の教授内容」をもとに作成しています。

実習経験を積み重ね、またさまざまな評価の経験を積むと、みなさん自身の評価の視点や基準も変化していきます。多くの場合、自己評価の基準はより厳しくなりますが、それは保育士として、専門家としての目が養われてきていることの現れです。絶対に正しい自己評価というものはありませんので、ここでは、実習中のことを振り返りつつ、現在のみなさん自身の基準から、率直に自己評価を試みましょう。



母子生活支援施設 居室

表 34-1 チェックリスト「保育実習Ⅲ」のねらいと内容・態度

	十分 できた	まあまあ できた	あまりでき なかった
<ねらい>			
1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。			
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。			
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			
4. 実習における自己の課題を理解する。			
<内容>			
1. 児童福祉施設等の役割と機能を理解する。			
2. 子どもや利用者を受容し、共感する態度を学ぶ。			
3. 個人差や生活環境に伴う子どもや利用者のニーズの把握と子ども理解をする。			
4. 個別支援計画を作成し、実践する。			
5. 多様な専門職との連携・協働について理解を深める。			
6. 地域社会との連携・協働について理解を深める。			
7. 保育士の多様な業務と職業倫理を理解する。			
8. 保育士としての自己課題を明確にする。			
<態度>			
1. 意欲を持って実習に取り組んだ。			
2. 責任ある態度で実習に取り組んだ。			
3. 保育への探究心を持って保育実践に取り組んだ。			
4. 協調性を持って施設の先生方と関わった。			

Homework Sheet Lesson 33 (Sample)

科目名：	受講日：	年	月	日 ()
	提出日：	年	月	日 ()
クラス：	学生番号：	氏名：		

課題内容：保育業務上のいろいろなジレンマ的場面を想定し、それぞれの場合、あなた（＝現場職員）ならどうするか、実践的に考えてみましょう。

場面① 児童発達支援事業所において、その日は障がいのある子どもが親と一緒に通園する日であった。みんなでリズム遊びをしているときに、ある母親が自分の子どもに対して、「どうしてあなたはできないの？ 他の子はちゃんとしているでしょう！」と言ってその子の頬を叩いた。

場面② 非番の日に街角の書店に出かけると、たまたま、勤務先の児童養護施設で担当している中学生を見かけた。声をかけようとする、その子は店頭にあった雑誌を数冊自分のカバンに入れて、そのまま急ぎ足で店を出て行ってしまった。

場面③ 乳児院での一時帰宅の際、迎えにきた母親が自分の子どもに外出用の服を着せようとした。そのとき母親が、いきなり怪訝そうな顔つきになって、「先生、どういことですか？ この子の腕に噛まれた跡があるんですけど！」と激しい口調で言った。

Homework Sheet Lesson 41 (Sample)

科目名：	受講日：	年	月	日 ()
	提出日：	年	月	日 ()
クラス：	学生番号：	氏名：		
<p>課題内容</p> <p>以下は日誌の記述の例です。下線部を正しい表現あるいはより適切な表現に改めましょう。</p> <p>〈「子どもの活動」欄の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の①<u>話しを</u>②よく聞く ① () ② () Point ▶ ①送り仮名の誤りを改めましょう。②具体的に書きましょう。 ・トイレで③<u>はいせつする</u> ③ () Point ▶ ③漢字に改めましょう。 <p>〈「保育士の援助・配慮」欄の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④<u>挨拶をする</u> ④ () Point ▶ ④朝の挨拶を想定し、「どのように」挨拶をするのかを書き加えましょう。 ・⑤「<u>手を洗いなさい</u>」と言う ⑤ () Point ▶ ⑤鉤括弧を用いず、間接話法に改めましょう。 ・⑥<u>泣いてる</u>子どもを抱き上げ、落ち着けるよう、背中を⑦<u>トントン</u>しながら穏やかにどうしたのかと声をかける ⑥ () ⑦ () Point ▶ ⑥話し言葉は用いません。⑦具体的にはどのような動作か詳しく書きましょう。 ・内容が⑧<u>かぶらない</u>よう、多様な種類の絵本を用意し、自由に子ども⑨<u>に</u>選ばせる ⑧ () ⑨ () Point ▶ ⑧若者言葉は用いません。⑨子ども主体の表現に改めましょう。 <p>〈「環境の構成」欄の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓を開けて⑩<u>換気したり机や椅子を移動して</u>室内の環境を整える ⑩ () Point ▶ ⑩「たり」は単独では用いません。 ・⑪<u>七夕に関する絵本や紙芝居、図鑑を室内の本棚に置く</u> ⑪ () Point ▶ ⑪七夕の直前を想定し、「なぜ」「何のために」そうするのかを書き加えましょう。 <p>〈「実習生の気づき・考察」欄の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑫「<u>障害によって援助のあり方も異なるんだなあ</u>」と実感した ⑫ () Point ▶ ⑫鉤括弧を用いず、間接話法に改めましょう。また話し言葉を書き言葉に改めましょう。 ・⑬<u>子どもたちが笑顔で過ごせるのは、職員の方々が絶えず笑顔で、明るく楽しい雰囲気作りをしていらっしやることに気づいた。</u> ⑬ () Point ▶ ⑬「主述のねじれ」が起きています。本来、「子どもたちが笑顔で過ごせるのは」のあとには理由を示す表現が続きます。 				

【解答例】

①話、②注意深く（集中して）、③排泄、④保護者と子ども（利用者）へ笑顔で元気よく挨拶をする、⑤手を洗うよう促す、⑥泣いている、⑦優しく撫でさすり、⑧重ならない（重複しない）、⑨が選べるよう配慮する、⑩換気したり机や椅子を移動したりして、⑪子ども（利用者）が自由に手に取れるよう（七夕へ関心が持てるよう）、⑫障害によって援助のあり方も異なるのだと、⑬子どもたちが笑顔で過ごせるのは、職員の方々が絶えず笑顔で、明るく楽しい雰囲気作りをしていらっしやるからだ気づいた。